

Q

1

不妊症の原因には どのようなものがありますか

A

日本産科婦人科学会では、「生殖年齢の男女が妊娠を希望し、ある一定期間避妊することなく通常の性交を行っているにもかかわらず、妊娠の成立をみない場合」を不妊、「妊娠を希望し医学的治療を必要とする場合」を不妊症と定義しています。女性の社会進出にともなって晩婚化が進んでいる現在、不妊期間が1年である場合は不妊症の検査が必要と考えられています。

不妊症の原因には「排卵因子」、「卵管因子」、「子宮因子(頸管因子を含む)」、「男性因子」、などがあります。原因が特定されない原因不明の不妊症も少なからず存在します。

2章

不妊症の原因について

排卵因子

脳の視床下部、下垂体そして卵巣に関わるホルモン分泌の機能異常が原因で起こる排卵障害です。不妊因子の約10%を占めており、「視床下部あるいは下垂体性排卵障害」、「早発卵巣不全」、「高プロラクチン血症」、「多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)」といった疾患があります。

卵管因子

卵管内の炎症による癒着、卵管内腔の線毛細胞の機能障害、卵管末端部(卵管采)の機能不全、卵管周囲の腹腔内の癒着による卵管の機能不全といった卵管の疾患が原因となるものです。近年増加しているクラミジア感染といった性感染症(STD)、子宮内膜症などが影響しているといわれています。

子宮因子(頸管因子を含む)

子宮の異常が原因となって起こる不妊を総称して子宮性不妊と言い、子宮・頸管によるものが不妊因子の約10%を占めます。子宮因子としては「子宮の形態異常」、「子宮筋腫や子宮内膜ポリープ」、「子宮内膜の器質的・機能的異常」、頸管因子には頸管粘液の分泌不全などがあります。

男性因子

不妊症の中で近年注目されている因子です。不妊因子の約35%を占め、その原因は「造精機能障害」、「精路通過障害」、「射精障害」の3つに分類されます。男性因子の約90%は造精機能障害が占め、原因不明の特発性が多く、2~3%に染色体異常(Klinefelter症候群など)があります。後天的なものとしては精索静脈瘤が最も多くなっています。

原因不明

検査の結果、不妊の原因が明らかではない、もしくは判断が不可能な場合は、機能性不妊症または原因不明不妊症と診断されます。